

特殊報第1号

農研生環第 186 号
平成16年10月19日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成16年10月19日
熊本県病害虫防除所長

1 病害虫名：ヤシオオオサゾウムシ *Rhynchophorus ferrugineus* (OLIVIER)

2 発生植物：カナリーヤシ（フェニックス）

3 発生確認の経過

平成16年9月、荒尾市内のカナリーヤシにおいて、新葉が落下し葉柄に害虫が発生しているとの連絡があった。後日、現地を確認したところ、葉柄基部にゾウムシ類の成虫および幼虫の寄生と食害を確認した。門司植物防疫所に同定を依頼した結果、県内未確認であるヤシオオオサゾウムシであることが確認された。

4 形態

成虫：体長は22～35mmと大型のゾウムシである。全体は光沢のある赤褐色であり、胸部背面には不規則な黒斑がある。

卵：白色で、長さ約2.5mm、幅約1mmである。

幼虫：乳白色で脚がなく、イモムシ状である。頭部は赤褐色で、終齢幼虫の体長は50～60mmになる。

蛹：ヤシの繊維で俵状の繭を作り、繭の中には赤褐色の蛹が存在する。体長は30～40mmである。

5 生態

国内での詳細な生態は不明である。台湾における幼虫期間は夏場で約3ヶ月、成虫の寿命は2～3ヶ月とされている。

6 寄主植物

国内では、カナリーヤシ、ワシントンヤシで被害が確認されている。中東から東南アジアでは、ココヤシ、デートヤシ、サゴヤシ等の重要害虫である。

7 分布

国内での発生状況は、75年に沖縄県で初確認され、97年に岡山県、98年に宮崎県、99年に鹿児島県、00年に福岡県、03年に長崎県、三重県で確認されている。

8 被害の特徴

幼虫の食害は、幹最上部の内部と新葉の葉柄基部に多く、柔らかい組織に食入した穴が集中して確認される。被害が進行すると、幹最上部から伸長する新葉がなくなり、幹最上部の壊死により全ての葉が枯れてしまい、最終的に樹木が枯死する。



写真1 ヤシオオオサゾウムシ成虫



写真2 ヤシオオオサゾウムシ幼虫



写真3 ヤシオオオサゾウムシによるカナリーヤシの被害
(新葉の葉柄基部)

特殊報は、病害虫防除所のホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto>)に公開している(カラー写真使用)。